

SPANCRETE
CORPORATION

株式会社スパンクリートコーポレーション

会社説明会

2010年6月24日



(株)スパンクリートコーポレーション



会社概要及び沿革

<会社概要>

本社	東京都文京区本郷四丁目9番25号
営業所	宇都宮営業所 仙台営業所
工場	宇都宮工場 岩瀬工場
設立	1963年3月
資本金	32億9,589万3,000円
従業員	134名(外派遣社員他21名)
事業内容	スパンクリート事業 不動産事業

<沿革>

63年 3月	設立 資本金1千万円 商号 スパンクリート製造株式会社
64年 2月	宇都宮市に生産設備完成 営業開始
82年12月	宇都宮工場 JIS指定工場となる
83年 3月	スパンクリート合成床工法 販売開始
89年11月	茨城県岩瀬町(現桜川市)に岩瀬工場完成
91年 2月	社名を現社名に変更
91年 9月	株式を公開 日本証券業協会店頭登録(JASDAQ)
93年 5月	岩瀬工場 JIS指定工場となる
04年 3月	明星プレテック(株)の株式を100%取得
05年 5月	宇都宮工場・岩瀬工場・設計部 ISO9001取得
06年 3月	プレテック(株)解散
10月	普通株式1株を2株に分割

(株)スパンクリートコーポレーション



工場

宇都宮工場

生産能力 約50,000m²/月 (18,608坪)



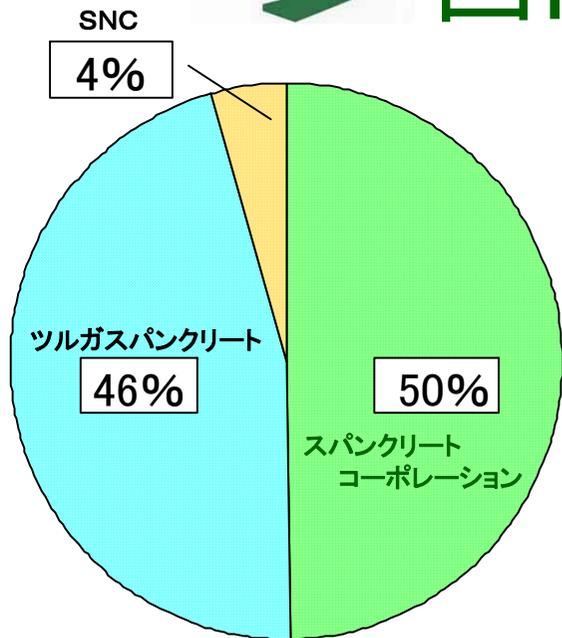
岩瀬工場

生産能力 約12,000m²/月 (19,638坪)

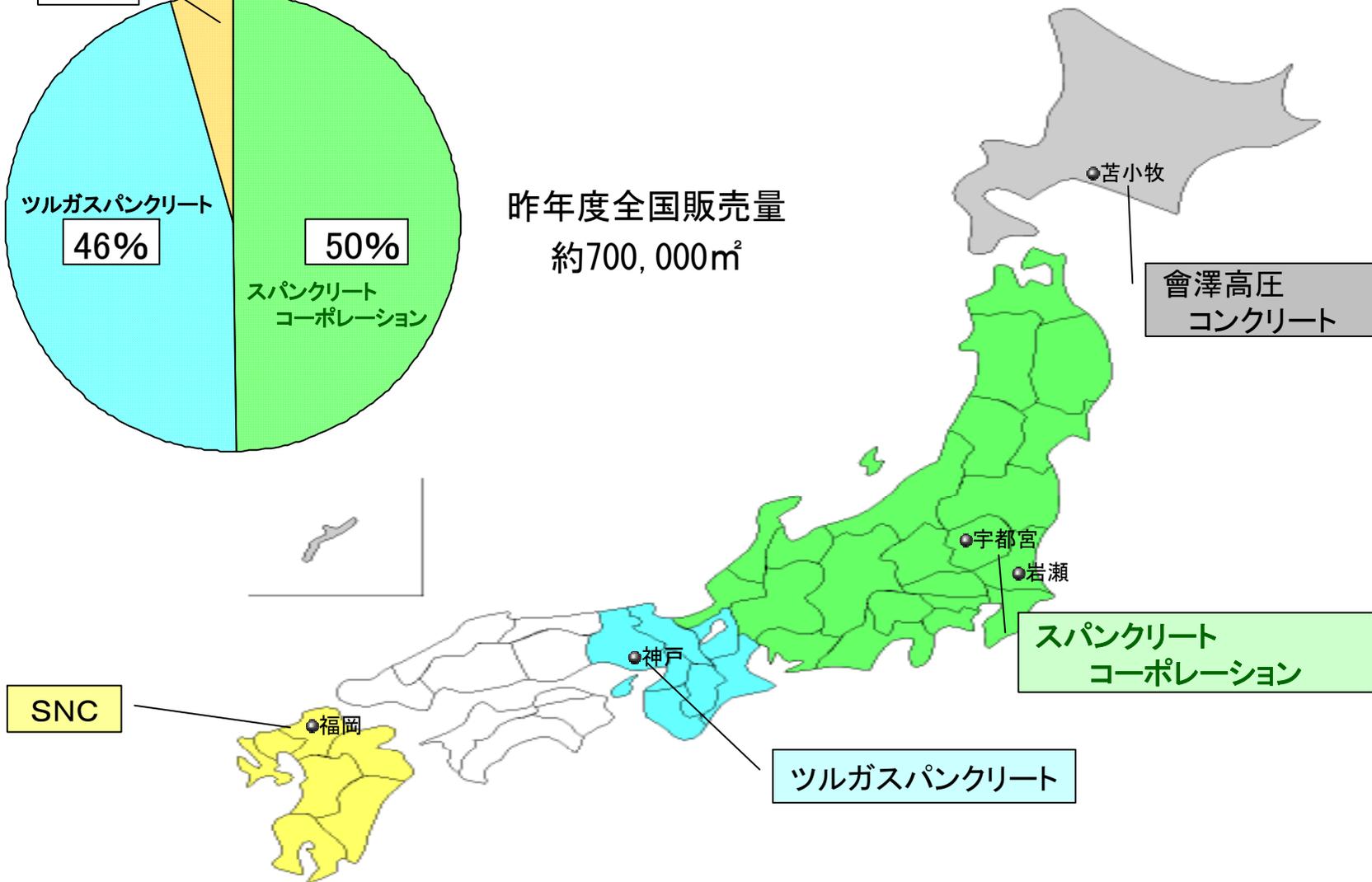




国内販売量比較



昨年度全国販売量
約700,000m²

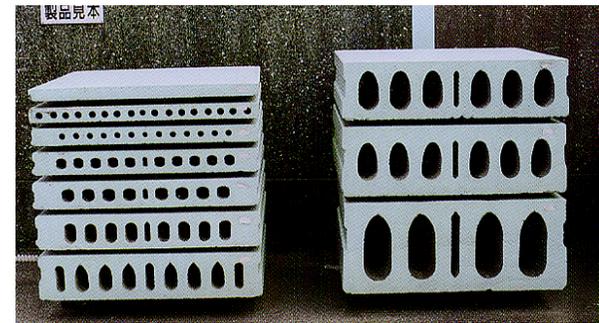


スパンクリート製品概要



(株)スパンクリートコーポレーション

SPANCRETE.  スパンクリート製品



(株)スパンクリートコーポレーション



スパンクリート生産

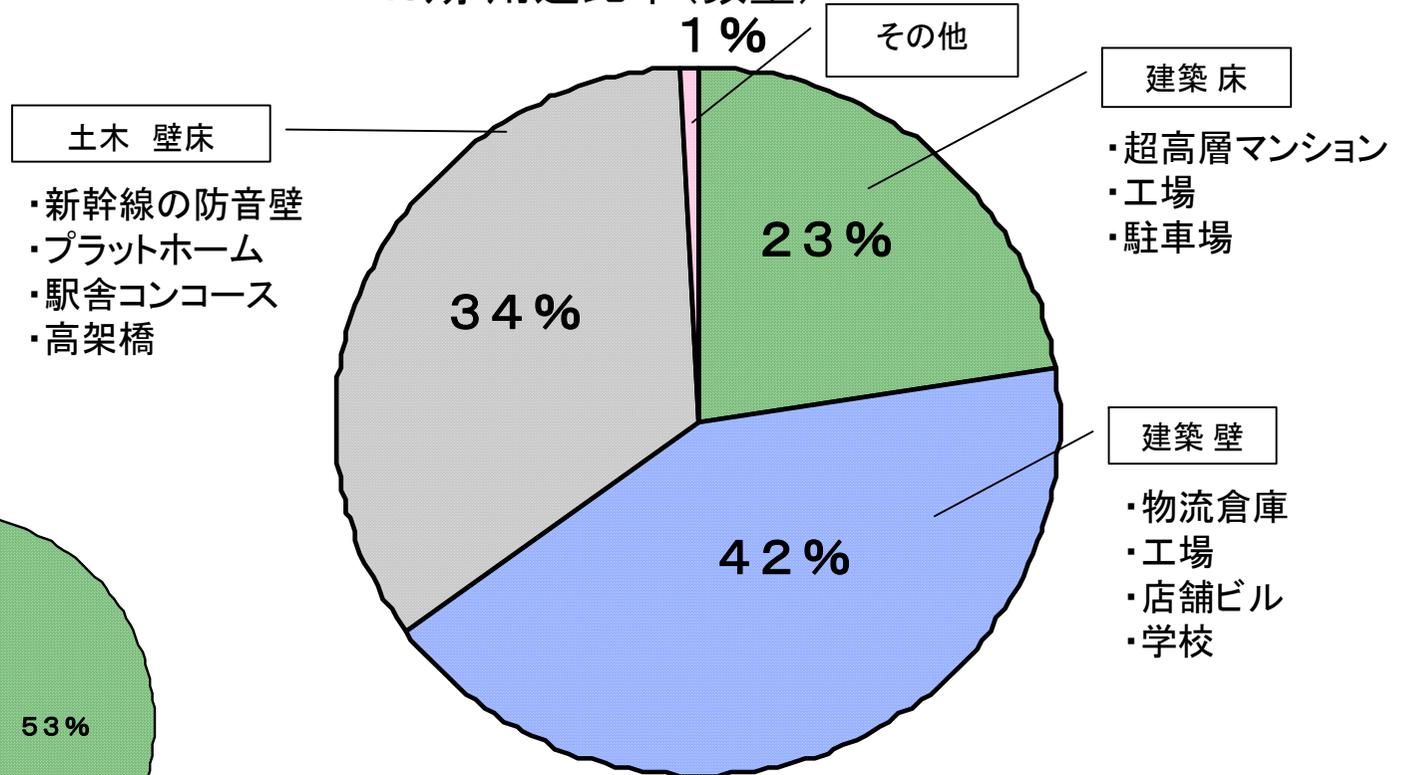


(株)スパンクリートコーポレーション

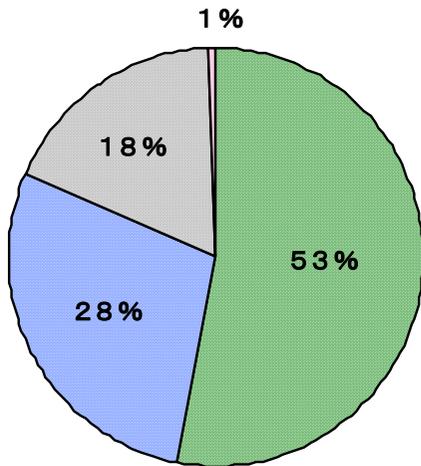


スパンクリートの主な用途

48期 用途比率(数量)



47期 用途比率(数量)

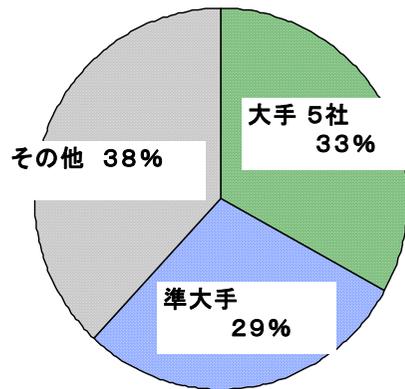




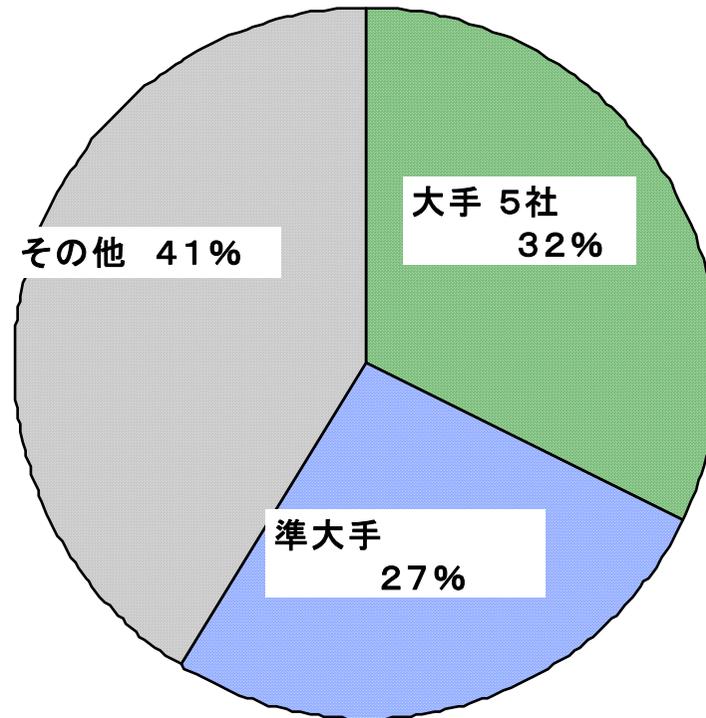
スパンクリートの主な販売先 (建設会社)

- ・鹿島建設(株)
- ・清水建設(株)
- ・大成建設(株)
- ・(株)大林組
- ・(株)竹中工務店
- ・前田建設工業(株)
- ・三井住友建設(株)
- ・戸田建設(株)
- ・西松建設(株)
- ・五洋建設(株)
- ・(株)銭高組
- ・(株)奥村組
- ・大和ハウス工業(株)
- ・鉄建建設(株)

他



47期実績ベース



48期実績ベース

(株)スパンクリートコーポレーション



スパンクリートの工事

床板の工事



壁板の工事





スパンクリート使用例 マンション・床



江東区豊洲計画



江東区有明計画



千代田区二番町計画



スパンクリート使用例 壁



コミュニティ施設



学校



パーキングエリア



工場

(株)スパンクリートコーポレーション



スパンクリート使用例 床・合成床



冷凍倉庫



体育館



工場



倉庫

(株)スパンクリートコーポレーション



スパンクリート使用例防音壁



北陸新幹線 黒部BL(糸魚川付近)高架

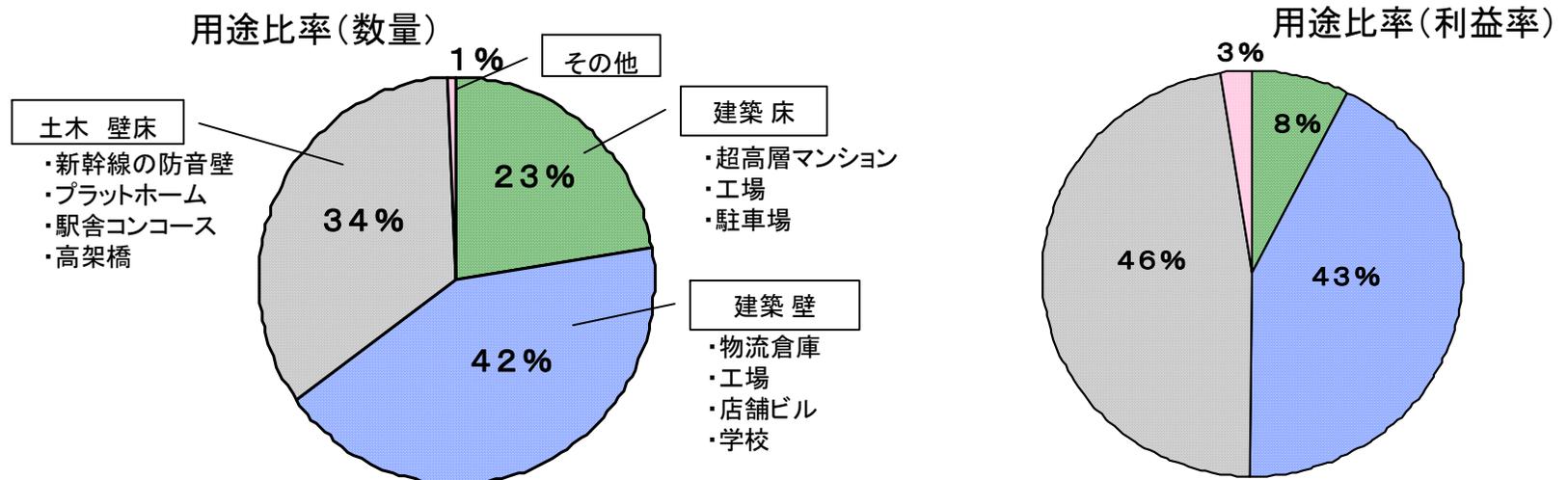


北陸新幹線 歌川(親不知付近)スノーシェルター



スパンクリート販売戦略

- 集合住宅を含む受注量確保のため販売部門を強化する
- 新幹線の防音壁の確実受注
- 新製品の開発と新用途の開拓



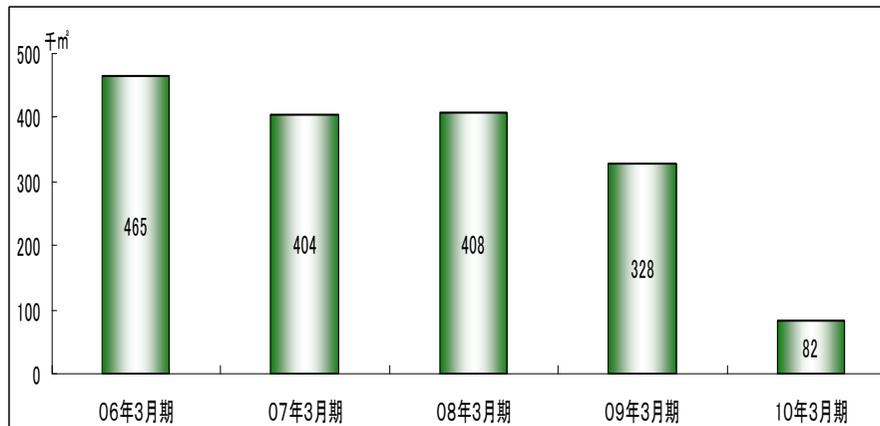
(株)スパンクリートコーポレーション



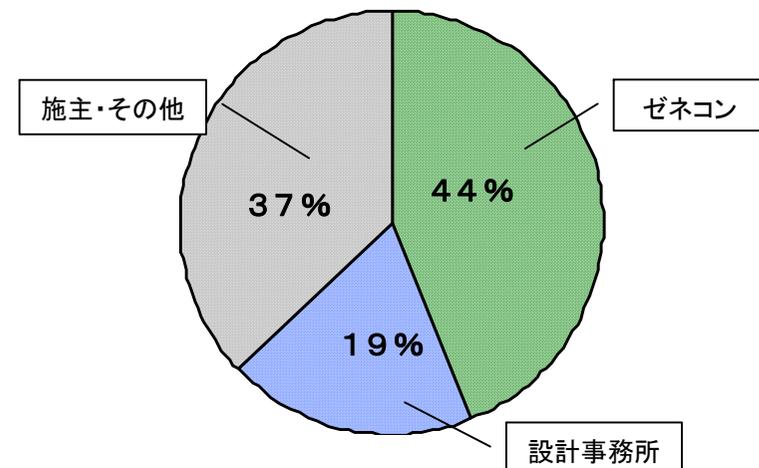
スパンクリート販売戦術

- 販売部門の人員構成を変更し、営業の他に技術・設計・工事関係からなる機動力のある複合グループ体制とする
- 販売チャンネルの増強を図る
- ゼネコン中心の営業から設計事務所営業へシフトを図る

集合住宅受注の推移

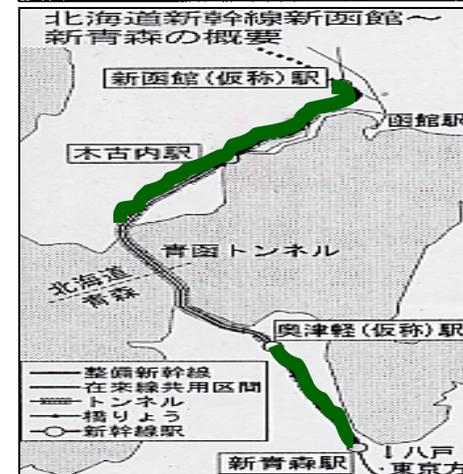
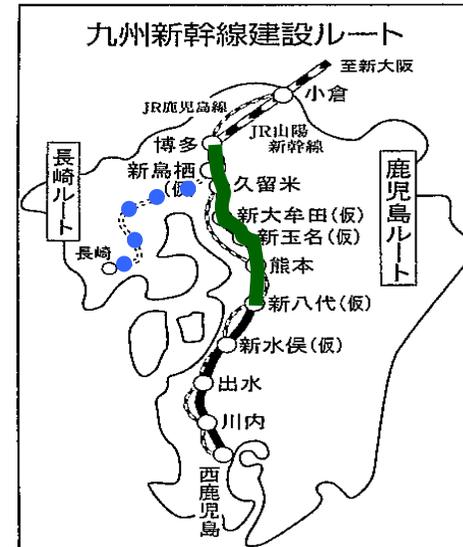
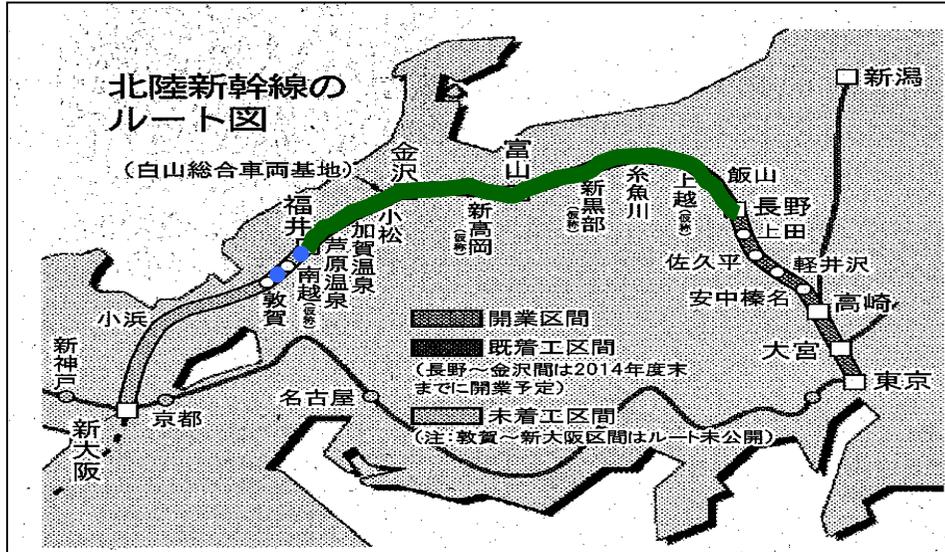


設計折込先比率





新幹線整備路線(2010年1月現在)他



(株)スパンクリートコーポレーション



新製品と戦略製品

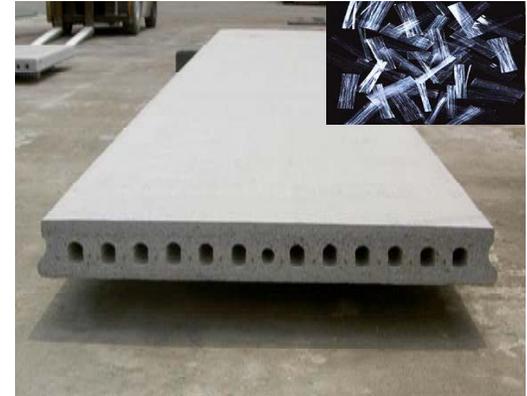
■ワイドパネル



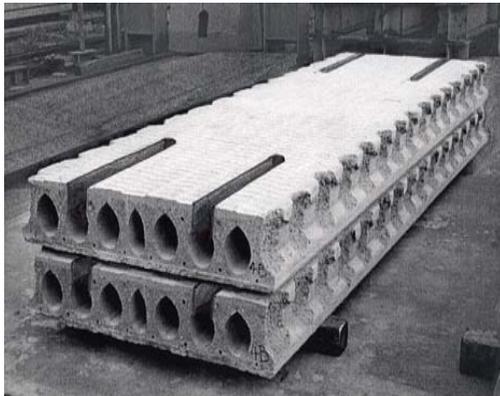
■Mスラブ



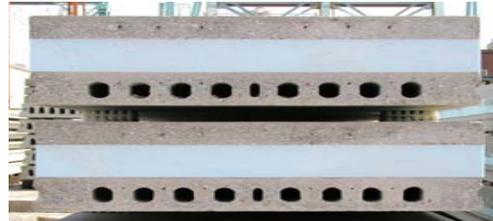
■トンネル天井パネル



■Jスラブ



■外断熱パネル



■デザインパネル



■ポーラスパネル



■ワイドパネル(特長・・・従来の2倍の大きさのため施工スピードが早く工期短縮)

現在の施工状況



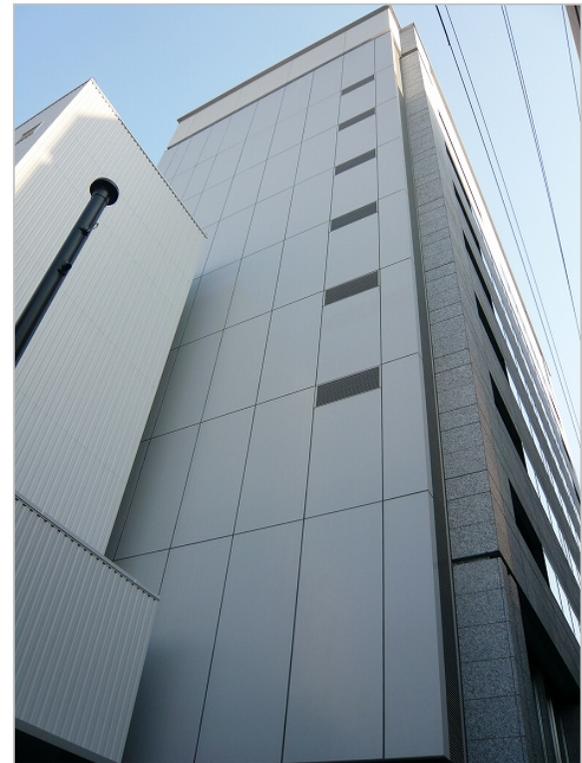
(厚さ120m/m)



軽量化
(厚さを薄くする)



(厚さ100m/m)



西新宿IIビル



■ Mスラブ (特長・・・鉄筋を入れ強度が大幅にアップしたスパンクリート板)
ホームドア設置駅



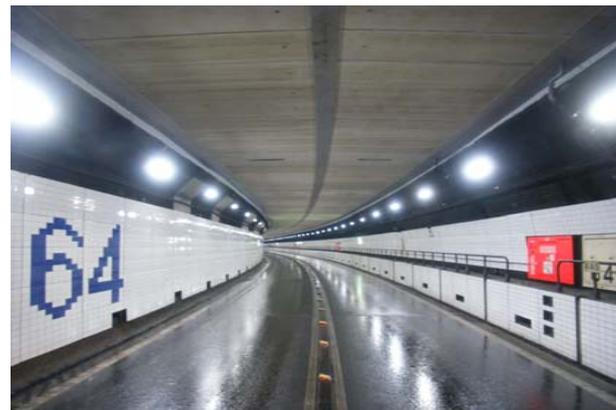
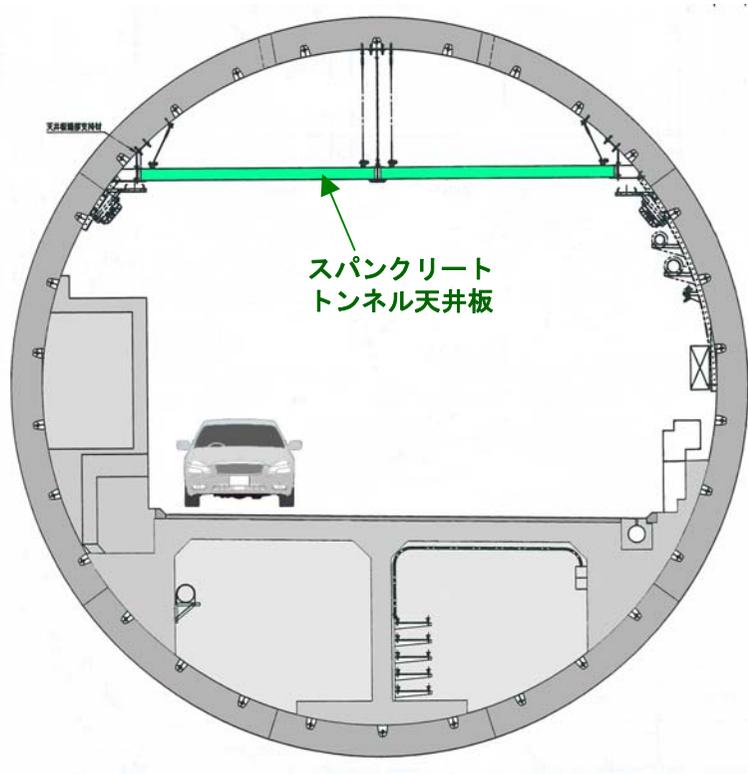
東急東横線 元住吉駅



成田新高速鉄道 京成日暮里駅

■道路トンネル用天井パネル

(STCパネル・・・トンネル火災時の爆裂防止対策パネル)



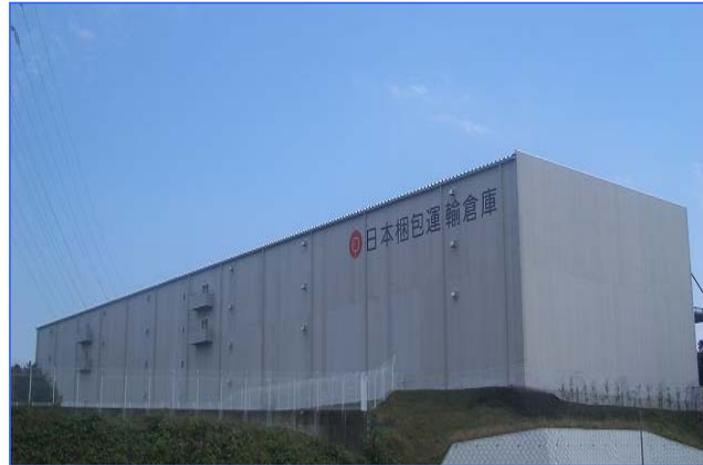
関門トンネル



夢咲トンネル

■ Jスラブ工法 (特長・・・現場での床のコンクリート打設が不要のため工期短縮)

改良工法
(平成19年9月特許取得)
定着板タイプ



- 外断熱パネル (特長・・・コンクリートと断熱材(ポリエチレン)の一体成型板)
- デザインパネル (物性実験が未了で開発を継続中)

外断熱パネル



デザインパネル



→
一体化



日本大学文理学部 図書館棟



■ポーラスパネル(特長・・・護岸法面に使用できるように改良を加えたパネル)



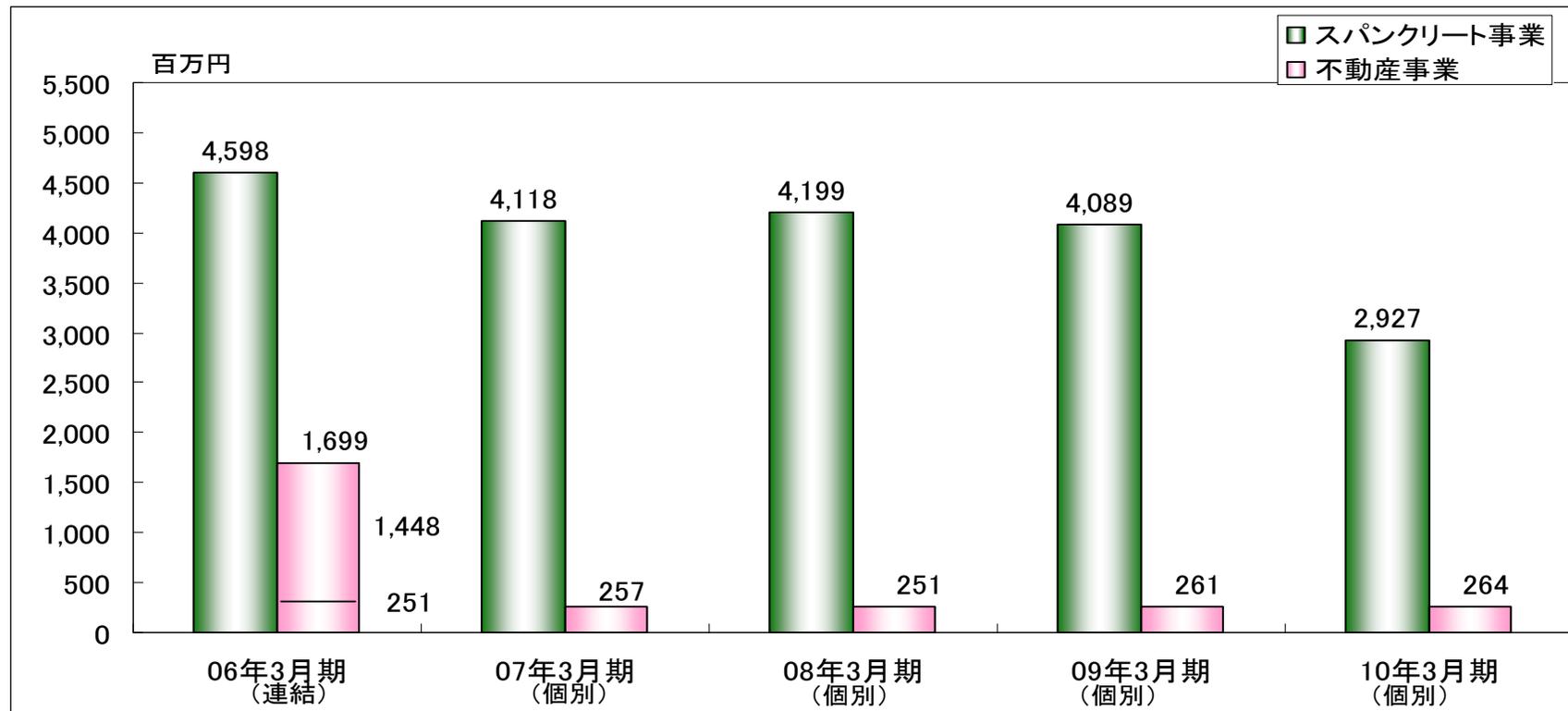
業績概況



(株)スパンクリートコーポレーション



事業のセグメント売上高



(株)スパンクリートコーポレーション



事業別概況

単位:百万円

		09年3月期		10年3月期		増減
		上期	通期	上期	通期	
スパンクリート事業	売上高	1,972	4,089	1,847	2,927	$\Delta 1,162$
	営業損益	53	78	17	$\Delta 237$	$\Delta 315$
不動産事業	売上高	129	261	132	264	3
	営業損益	68	138	75	149	11
その他共合計	売上高	2,101	4,350	1,980	3,191	$\Delta 1,159$
	営業損益	116	206	91	$\Delta 90$	$\Delta 296$

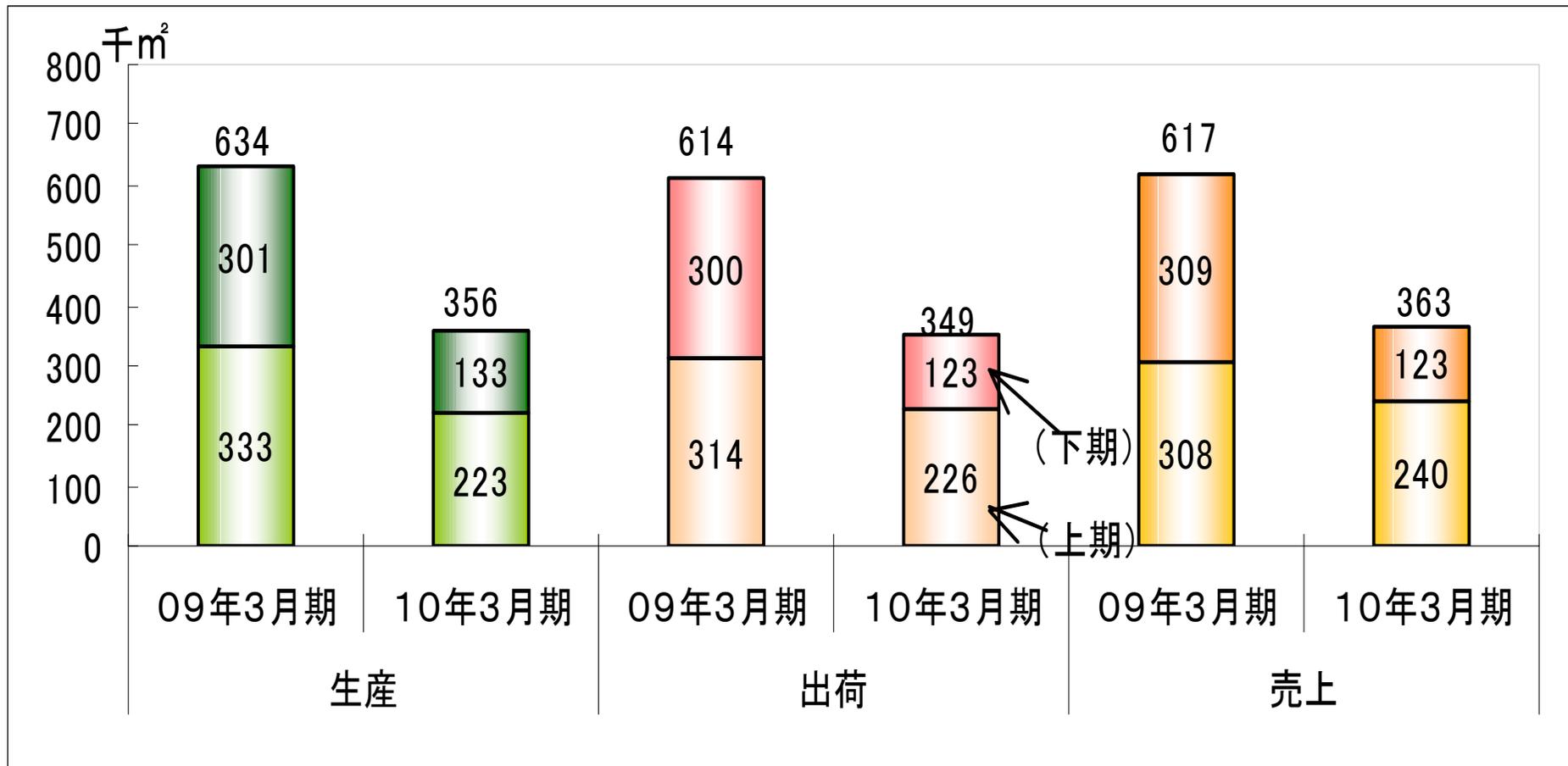
スパンクリート事業



(株)スパンクリートコーポレーション



スパンクリート生産・出荷・売上 数量比較



不動産事業



(株)スパンクリートコーポレーション



所有賃貸ビル

台東区
台東オリエントビル



8階建 1,466.4㎡

新宿区
30山京ビル



8階建 1,887.1㎡

文京区
駒込スパンクリートビル

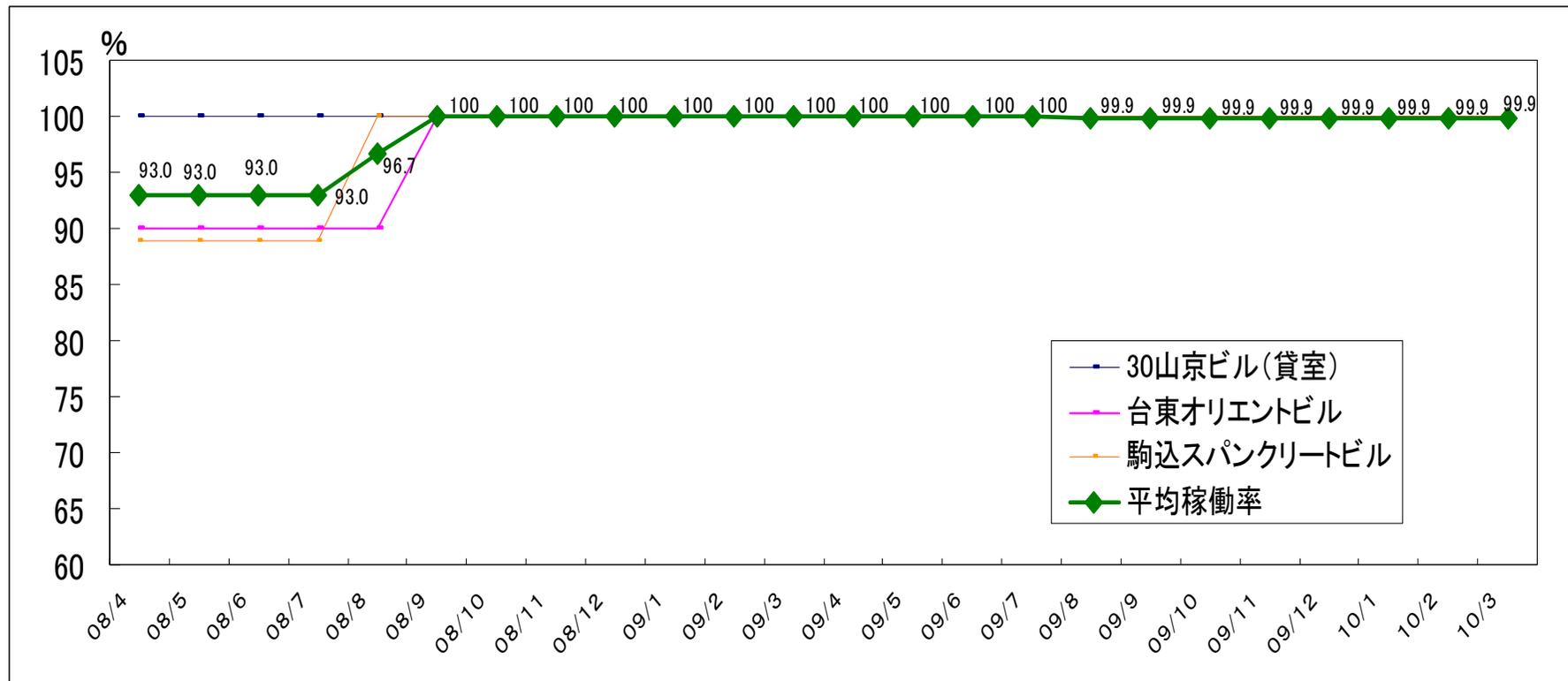


9階建 1,621.5㎡

(株)スパンクリートコーポレーション

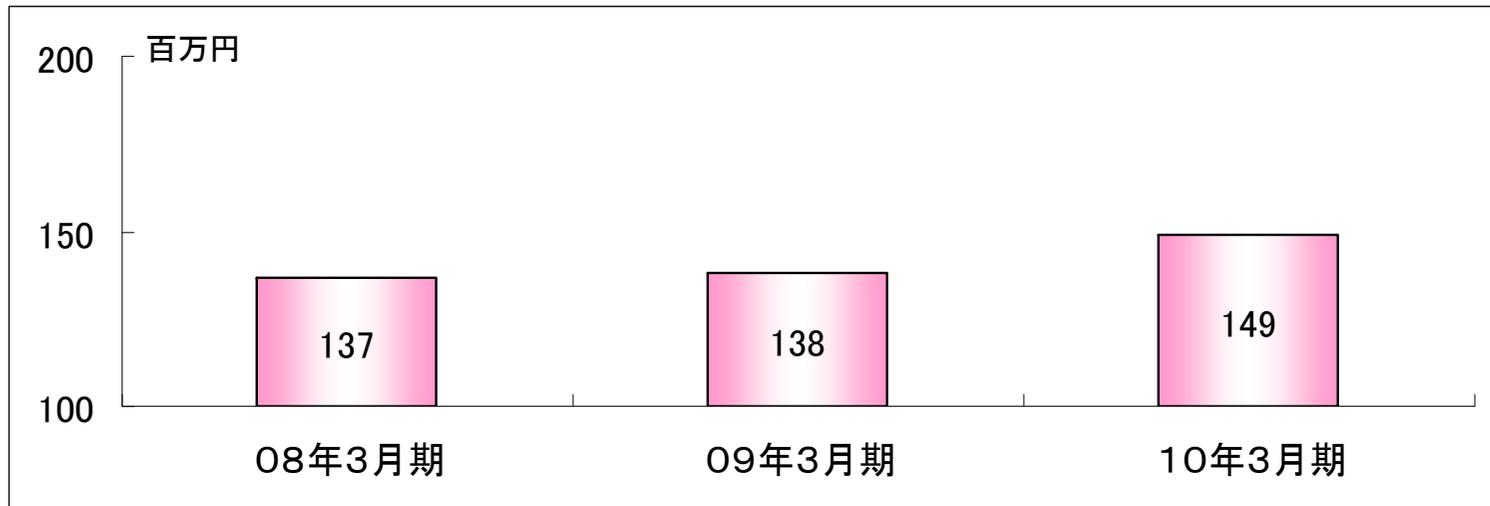


所有賃貸ビル(3棟)平均稼働率





不動産事業利益実績



《賃貸ビル3棟の投資利回り》	6.4%	6.7%	7.1%
《賃貸ビル3棟の 簿価に対する利回り》	9.7%	10.4%	11.9%

財務状況



(株)スパンクリートコーポレーション



比較貸借対照表 <資産の部>

単位:百万円

	09年3月期	10年3月期	増減	摘要
流動資産	3,860	3,752	▲108	
現金及び預金	1,587	2,262	675	
売掛債権	1,315	524	▲791	売上高の減少および工事進行基準の採用により減少
有価証券	588	738	150	
たな卸資産	158	176	18	
未成工事支出金	128	4	▲124	
その他	81	45	▲36	
固定資産	5,868	5,481	▲387	
有形固定資産	4,560	4,456	▲104	
建物・機械	1,458	1,355	▲103	
土地	3,099	3,099	0	
建設仮勘定	1	1	0	
無形固定資産	12	11	▲1	
投資その他	1,296	1,014	▲282	
投資有価証券	1,057	760	▲297	時価の下落、流動資産への振替等で減少
その他	238	253	15	
資産合計	9,728	9,234	▲494	

(株)スパンクリートコーポレーション



比較貸借対照表<負債の部>

単位:百万円

	09年3月期	10年3月期	増減	摘要
流動負債	1,547	1,150	▲397	
買掛債務	255	129	▲126	支払手形は発行していません
短期借入金	875	700	▲175	
未払費用・未払金	287	214	▲73	
未成工事受入金	54	11	▲43	
その他	75	95	20	
固定負債	816	871	55	
長期借入金	0	0	0	
長期未払金	12	69	57	
再評価に係る繰延税金負債	693	693	0	
その他固定負債	109	108	▲1	
負債合計	2,363	2,021	▲342	



比較貸借対照表<純資産の部>

単位:百万円

	09年3月期	10年3月期	増減	摘要
純資産の部	7,365	7,212	▲153	
株主資本	7,460	7,206	▲254	
資本金	3,295	3,295	0	
資本剰余金	3,710	3,696	▲14	
利益剰余金	772	513	▲259	
自己株式	▲317	▲300	17	取得 149千株
評価・換算差額等	▲95	6	101	
有価証券評価差額金	▲173	▲71	102	
土地再評価差額金	77	77	0	
負債・純資産合計	9,728	9,234	▲494	

・自己資本比率 75.7% 78.1%

(株)パンクリートコーポレーション



比較損益計算書

単位:百万円

	09年3月期	10年3月期	増減	摘要
売上高	4,350	3,191	▲1,159	スパンクリート事業 ▲1,162減収 不動産事業 3増収
売上原価	3,571	2,772	▲799	
一般管理販売費	572	509	▲63	
営業損益	206	▲90	▲296	スパンクリート事業 ▲307減益 不動産事業 11増益
営業外収益	109	70	▲39	
営業外費用	45	16	▲29	
経常損益	270	▲37	▲307	
特別損失	▲503	▲118	385	
税引前当期純損失	▲233	▲156	77	
法人税・住民税	12	10	▲2	
法人税等調整額他	▲20	58	78	
当期純利益	▲225	▲226	▲1	



株主資本等変動計算書

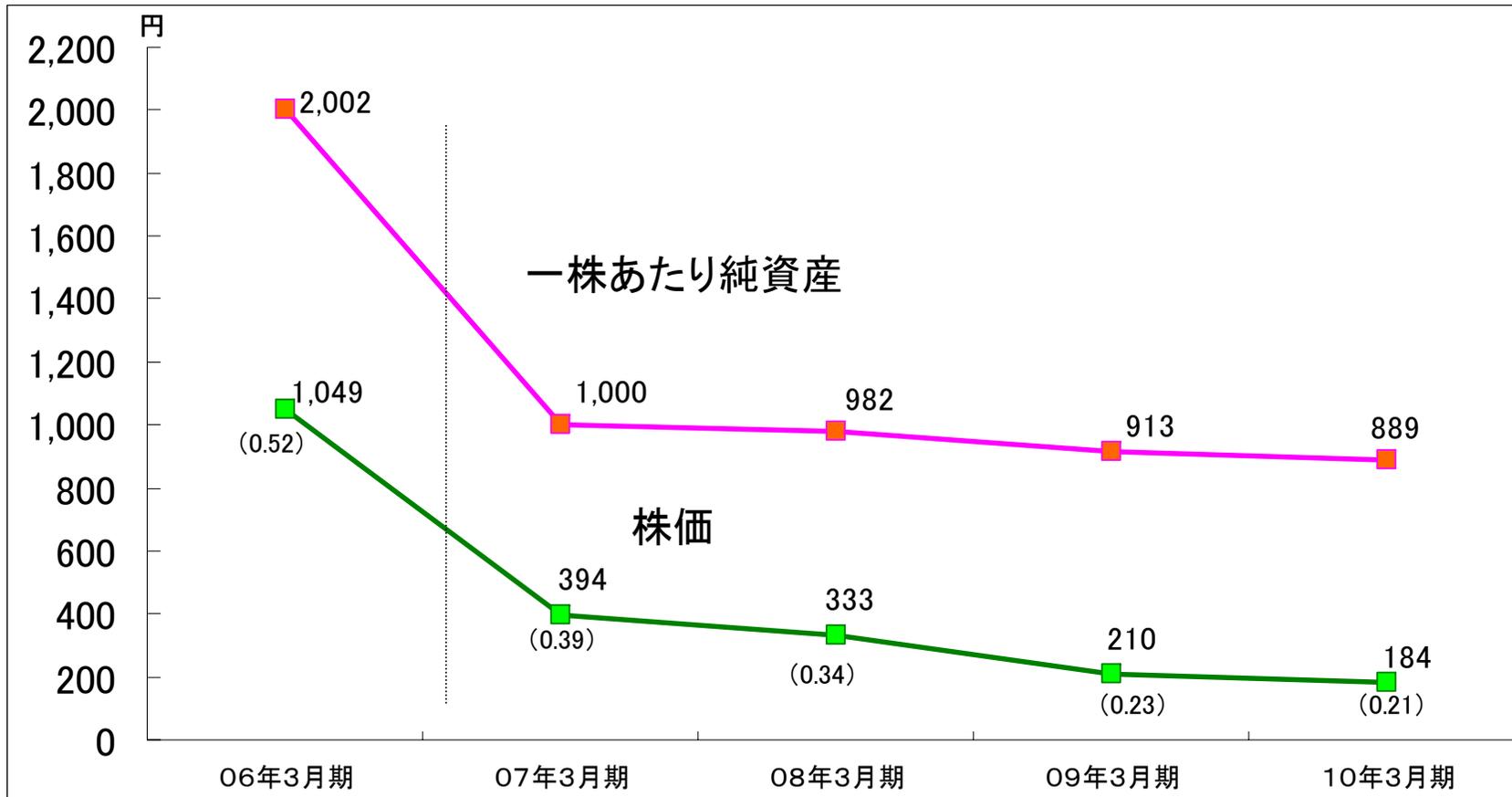
単位:百万円

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
前期末残高	3,295	3,710	772	▲ 317	7,460
剰余金の配当			▲ 32		▲ 32
土地再評価差額金の取崩					
当期純損失			▲ 226		▲ 226
自己株式の処分		▲ 13		45	32
自己株式の取得				▲ 28	▲ 28
変動額合計		▲ 13	▲ 258	17	▲ 254
当期末残高	3,295	3,696	513	▲ 300	7,206

	純資産		
	有価証券評価差額金	土地評価差額金	純資産合計
前期末残高	▲ 173	77	7,365
株主資本の変動額			▲ 254
株主資本以外の変動額	101		101
変動額合計	101		▲ 153
当期末残高	▲ 71	77	7,212



一株あたり純資産・株価(PBR)推移



06年10月普通株式1株を2株に分割しました

(株)スパンクリートコーポレーション



資本政策の推移

《自己株式の消却》

2000年度～2003年度	1,588千株	482百万円
---------------	---------	--------

《自己株式の取得》

2004年6月～2009年3月	942千株	709百万円
-----------------	-------	--------

2009年7月～2010年3月	149千株	28百万円
-----------------	-------	-------

《自己株式の処分》

2007年2月	363千株	137百万円
---------	-------	--------

2009年5月	176千株	32百万円
---------	-------	-------

《1単元株式数の引き下げ》

2005年11月1日付で1,000株を100株に変更

《株式分割》

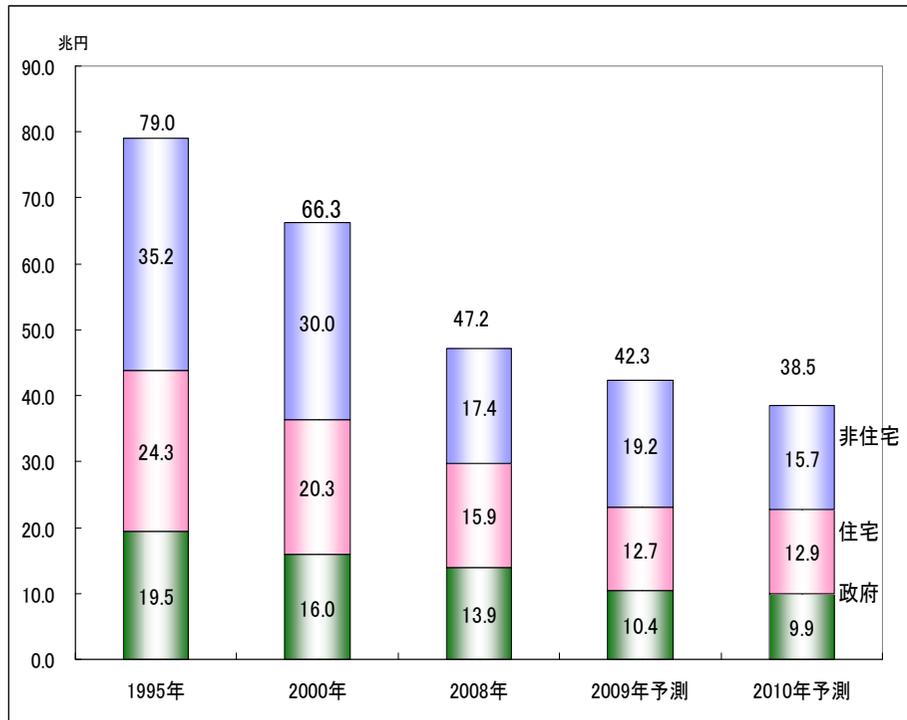
2006年10月1日付で1株を2株に分割

当社を取り巻く環境と今後の課題





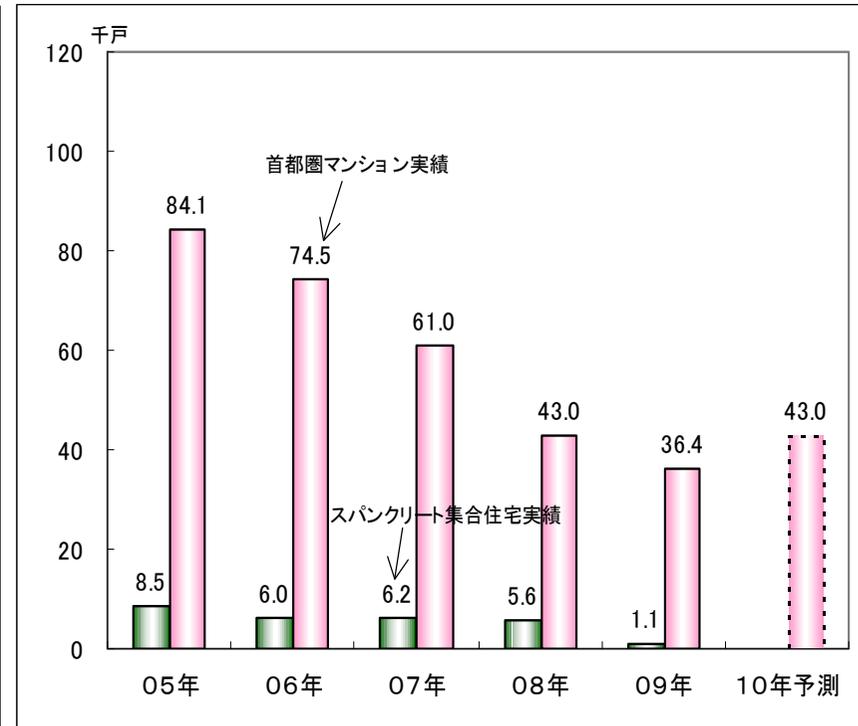
建設投資額の推移



出典: (財)経済調査会



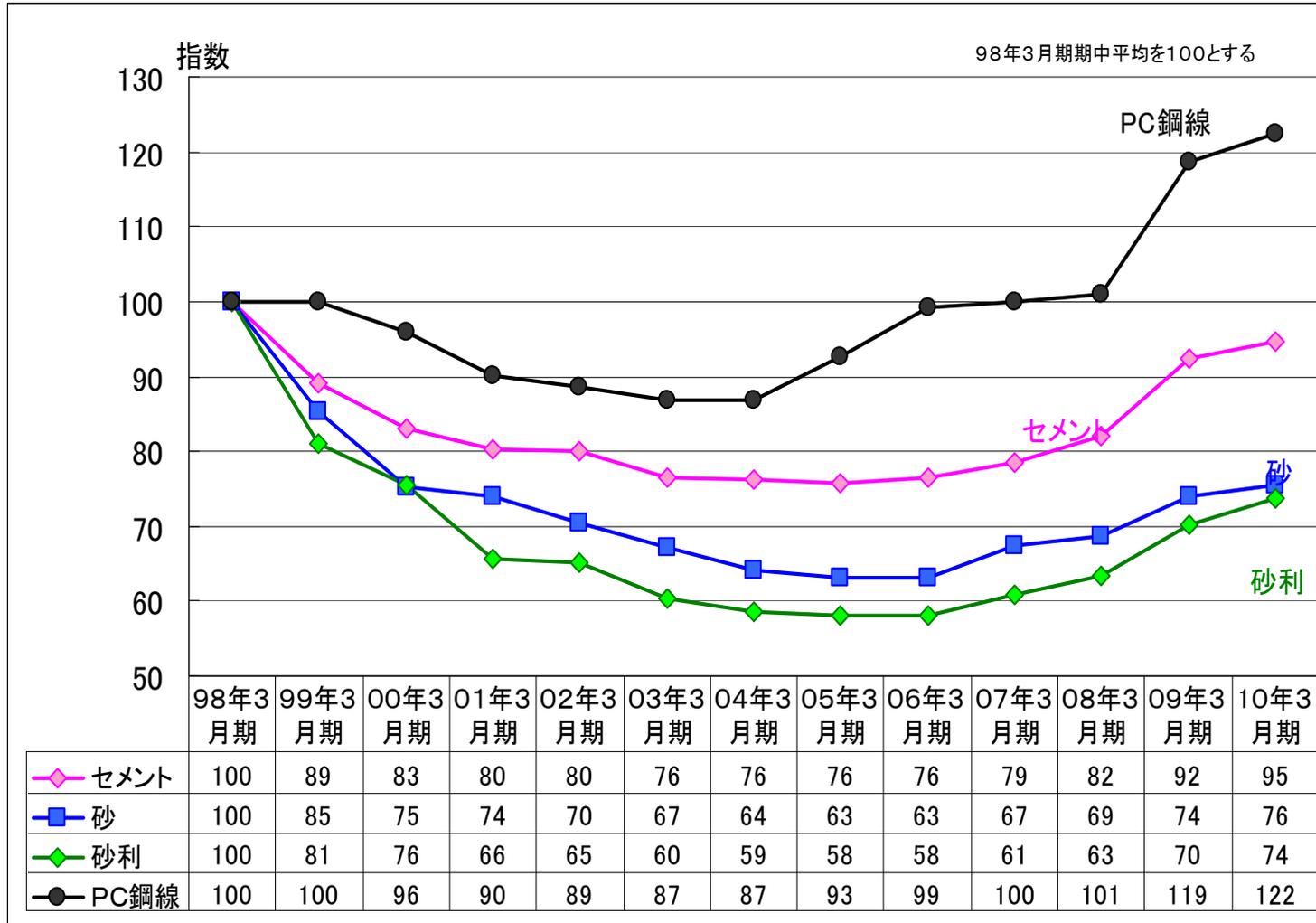
首都圏マンションの供給推移と予測



出典: (株)不動産経済研究所



原材料購入単価指数推移





リーマンショック後の不況対策と反省

○平成21年度建設不況突入

- ・当社受注、販売数量の大幅減少を予想600千㎡／年分 → 380千㎡／年
(50千㎡／月) (30千㎡／月)

○前回不況(バブル崩壊後の90年代)時に実施した経営改善策(再生計画)を参考にした対策実行

- ・全体人員の削減(207名 ⇒ 150名)
- ・工場の集約、岩瀬工場の一次休止
- ・全社経費の削減
- ・雇用調整助成金の活用(本社・工場とも一時帰休の実施)

○しかし、以下の点で上記改善策は不十分に終る(営業赤字)

- ・製品の構成変化(マンション床材のウェート減、壁板比率上昇)に伴い、製品の多様化、
小口化への対策が遅れる。(工場、設計の生産性の低下)
- ・21年度下期には一時的ではあるが予想を超える異常な出荷生産量の低下(20千㎡／月)→
工場の固定費上昇
- ・原材料コストの高止まり。原材料転換(砂利、砂)に伴う製品歩留率の一時的な低下



取り組むべき課題

減収(数量減)でも利益の出る体制の構築(月産30千~25千m²体制)。

○営業粗利益率の向上

- ・付加価値の高い新製品、戦略製品の拡販
- ・利益率の高い壁板の拡販
- ・原材料費(特にPC鋼線)上昇の製品価格転嫁

○本社費のスリム化

- ・営業力強化を目指した機構改革(組織のスリム化、機動化、社員の多能工化)、
工事部門のアウトソーシング
- ・人員の削減
- ・本社移転、聖域のない経費削減

○製造コストの引き下げ

- ・最適生産効率の追求(工場完全集約)
- ・品質向上(歩留まり率向上)
- ・原材料費の抑制
- ・NPSの活用(リードタイム短縮、生産性向上、段替え時間の短縮、etc)

(株)スパンクリートコーポレーション



11年3月期見通し

<重点施策>

－ 減収(数量減)でも利益の出る体制の構築 －

- ①機動的な構えの調整(工場の集約・工場原価の大幅見直し)
- ②本社のスリム化(営業力強化を目指した機構改革・本社の移転等)
- ③壁板(含新幹線防音壁)の受注強化と高付加価値の新製品開発(粗利益の向上)

単位:百万円

	10年3月期実績	11年3月期見通し
売上高	3,191	3,200
営業利益	▲90	70
経常利益	▲37	80
当期純利益	▲226	40

ご清聴ありがとうございました



(株)スパンクリートコーポレーション